



「世界津波の日」2024 高校生サミット in 熊本に参加！

11月5日の「世界津波の日」は、津波の脅威と対策について理解と関心を深めることを目的に、2015年12月の国連総会において日本が提唱し、我が国をはじめ142か国が共同提案を行い、全会一致で採択されました。この日が「世界津波の日」とされたのは、安政元年（1854年）11月5日、安政南海地震による津波が現在の和歌山県広川町を襲った際、和歌山県の先人である濱口梧陵が稲むらに火をつけ、津波から逃げ遅れた村人を高台へ導いて、多くの命を救った故事にちなんだものです。2016年からは、世界各国の高校生が津波の脅威と対策を学ぶ場として、「世界津波の日」高校生サミットが開催されています。

2018年には津波防災の聖地・和歌山県で「世界津波の日」2018高校生サミット in 和歌山～「稲むらの火」発祥の地、和歌山で濱口梧陵の精神を共に学ぶ～が開催されました。和歌山県以外にも高知県、沖縄県、北海道、新潟県で開催されてきました。

今年は熊本県において、地震や津波などの自然災害による被害を最小化し、国土強靭化を担う将来のリーダーの育成と世界各国の「きずな」を一層深めることを目的に、「世界津波の日」2024高校生サミット in 熊本（@熊本城ホール他）が開催されました。テーマは「熊本の教訓を世界へ、そして未来へ～熊本自身や集中豪雨など大規模自然災害を経験した熊本で、命を守る対策と創造的復興を学ぶ～」です。

国内参加者（高校生313名／引率者78名／78校）と海外参加者（高校生213名／引率者43名／43か国・地域）の総勢647名（過去最多）が参加し、本校からは2年生環境科学科の児玉和奏さん、中村朋さん、吉村心音さんの3名が参加しました。



10月23日（水）1日目は分科会、開会式、レセプションが行われました。分科会では次の①～③（①自助・共助で防災を考える、②自然との共生で減災を考える、③大規模災害を教訓として創造的復興を考える）に分かれ、各国の生徒同士で英語を用い議論を行いました。本校の3名は②自然との共生で減災を考えるの分科会に出席しました（Jグループ：佐野高校（栃木県）、静岡学園高校（静岡県）、明治学園中学校・高校（福岡県）、第二高校（熊本県）、鹿本高校（熊本県）、中国、ナウル、ソロモン諸島）。分科会はセッション1～5に分かれています。

セッション1：各校・各国／地域の自己紹介とプレゼンテーション

セッション2：ユニットに分かれてディスカッション（ユニットワークシートにユニット・アクションプランをまとめる）

セッション3：代表者がユニット・アクションプランをグループ内でプレゼンテーション

セッション4：ユニット代表者がディスカッション（グループ・アクションプランをまとめる）

セクション5：グループ代表者2名がグループ・アクションプランをグループ全体に発表

本校は「To build levees using oysters」というタイトルでプレゼンテーションを行いました。また、当日は和歌山県教育長の宮崎泉様もお越しになられ、激励のお言葉をいただきました。開会式では、参加国・地域紹介、開会宣言、スタディツアー報告、被災体験講演等が行われました。レセプション（@ホテル日航熊本）では立食パーティの形式で行われ、夕食を介しながら交流を図りました。



宮崎教育長との対面



分科会での発表



分科会でのようす（中村さん）

10月24日（木）2日目は記念植樹、記念碑除幕式、総会、閉会式が行われました。

記念植樹・記念碑除幕式（@くまもと街なか広場）では本校の吉村心音さんが植樹、児玉和奏さんが除幕の役割をさせていただきました。総会・閉会式では総会・閉会宣言、分科会報告、大会宣言発表、アトラクション、クロージングアトラクション、閉会宣言等が行われました。



除幕のようす（児玉さん）



植樹のようす（吉村さん）



全体会のようす

以下、生徒の感想（振り返り）です。

「今まで参加してきた英語系イベントの中で段違いに英語力が求められるイベントだと思った。ディスカッションは英語が聞き取れないとできないし、聞き取れても単語の意味がわからないしと、自分の英語力の低さを自覚するとともに、伝わったときや聞き取れたときの喜びも同時に感じる事ができた。」

「和歌山では災害がよく起こるので、このサミットを通して改めて災害について考えることができてよかった。防災や減災、復興について考えることができてよかった。防災や減災、復興についての考えを学んだだけでなく、他の高校生の積極性や能力の高さに刺激を受けることができ、とても良い機会になったと思う。」

「国内だけではなく海外の生徒も多くいて、その人たちの英語は普段授業で聞くものとは全く違っていて、改めて言語の壁を感じるとともにもっと交流ができるようになりたいと思った。また、プレゼンがすごく上手な高校生がいて、自分もあれくらい人を聞き入らせることができる喋り方ができるようになりたい。英語やプレゼン、その他さまざまなことに優れた人たちにたくさん出会えて、自分の知らない世界を知ることができて、すごく刺激になった。」

以下、生徒の後輩へのメッセージです。

「英語は勉強しておいたほうが良いよ。自分の発表内容は何も見ずに伝えられるくらいにしておくと思えば楽しいと思う。」「普段の学校生活では学べないことがたくさんあるので、このような機会を大切にしてください。さまざまなことに参加してみてください。」「いろいろと不安はあるかもしれないが、同世代の人たちから得られるものは多く、良い経験になると思うので、ぜひ参加してみてください。」